

認知症に関する活動計画(概要)

北海道作業療法士会では、地域部に認知症施策推進課を設置し活動している。

前年度より新規事業として認知症カフェのコンサルタント事業の継続と、今年度は北海道で10月に行われる認知症の人と家族の会の全国研究集会で当課も実行委員として参加予定である。また、各部員が臨床で実践する認知症の活動として、新たにMCIを対象とした認知症予防教室や北海道のオレンジチューターとして各市町村のチームオレンジの立ち上げの伴走支援なども実施している。北海道は広域であり、会員の活動する自治体規模、利用可能な社会資源も多岐に渡る。そのため、それらの特性を理解し、地域に必要な情報発信を積極的に行う予定である。

重点課題研修会の開催(人材育成)

『地域!みんなつながろう』と題し、前年に引き続き鳥取県北栄町役場で働く作業療法士藤田恵子さんをお迎えし札幌市の会場とWEBにて開催した。

前半は「地域でみんなつながるためにOTは何ができるか?」をセルフケアプラン「私のプラン」を用いて学んだ。後半は介護予防事業や地域イベントで大好評「脳活商店街・広告だっちゃ」を通じて視空間認知、注意機能など知的活動への活用を参加者で楽しんだ。この研修後どのように仲間づくりをしていくかが今後の課題となっている。



広報誌へのコラム掲載

北海道作業療法士会は所属する作業療法士に向け、広報紙を2か月に1度発行している。その中に地域部に所属する各課が持ち回りで、「北海道まるごとOT計画」と題するコラムを掲載している。当課は認知症の人との関わりなど各地での実践報告、研修会案内などを執筆した。

認知症カフェの立ち上げ・運営について

認知症の地域支援を望む作業療法士(以下、OT)にとって、具体的活動の一つに認知症カフェの立ち上げや運営への参画がある。地域住民との連携や資源の活用を模索しながら取り組まれている。今後も、北海道内で認知症の地域支援に興味関心のあるOTのよこの繋がりや認知症カフェ参画の経験のあるOTから具体的な実践を学べる機会を作っていく、OTが地域から必要とされる力を持つことができるよう継続的に支援を検討し計画していく。



RUN伴(ランとも)

本年度は認知症を生きる本人や家族、医療関係者に作業療法学生を加え、タスキをつなぎながら地域に顔の見えるつながりを作ることに貢献した。沿道からの応援もあり、市民への啓発活動となった。ゴール後は参加者が地域住民として、認知症の人にやさしいまちづくりについて語り、そこから作業療法士として参画する視点を得た。

(RUN伴公式HP:<https://runtomo.org/>)

